



日本史探究 新訂版

昌平中学・高等学校
堀越 直樹

改訂前の『日本史探究』は、3つの大きな特徴がありました。第1は「問い」の重視、第2は「資料」の重視、第3は「熟成した学説」の採用です。

今回の改訂にあたっては、根幹となる上記の特徴を継承しつつ、実際に教育現場で教科書を活用していただいている先生方のご意見を大切にしながら、さらなる内容の充実をはかりました。

『日本史探究 新訂版』は多くの特徴がありますので、改訂のポイントを交えつつご紹介します。

1. 「問い」を通じて歴史的思考力を育成する

通史型の構成のなかに、思考力の育成に資する多様な「問い」が組み込まれているというのが改訂前からの特徴ですが、一部の「問い」において、既習内容だけでは考察しにくいものがありました。そこで、授業を展開する観点から再検討を行い、先生方が提起しやすく、生徒一人ひとりがふくらませやすいものにすることを意識して改善しました。また、教科書中心の学習で国公立大学の二次試験で出題されるような論述問題にも対応できることを意識し、「問い」の質や量を改善しました。

2. 授業で活用しやすい「資料」の採用

資料に問いを付すなどして、読解の補助線とするような工夫を増やしています。例えば、福沢諭吉の『文明論之概略』の資料(242ページ)では、問いを付すことで、生徒が文明・半開・野蛮という言葉に着目しやすくなっています。

3. 熟成した学説の拡充

改訂前では土地制度や鎌倉仏教など、歴史学研究の進展をふまえた記述について、多くの先生方から評価をしていただきました。新訂版では、熟成

した学説をさらに拡充することを意識しています。例えば、「総力戦」という言葉は、第一次世界大戦の際に登場する点は歴史総合・世界史探究・日本史探究に共通していますが、日本史の研究分野では「総力戦」が十五年戦争のなかで進展していったものとして認識されており、今回の改訂で本文の内容に反映させました(316～317ページ)。

4. その他の改訂ポイント

近代化、大衆化、グローバル化、国民国家、帝国主義など、歴史総合で学んだ概念・用語を日本での事例とつなげて理解を深めることを意識し、本文や特集ページの記述に反映させました。

「ACTIVE」「歴史資料と各時代の展望」など資料読解を重視した特集ページを拡充しました。新訂版では、ジェンダーに関する資料をみながら時代の特徴を考察するページなどを新設しています。本文ページで学習した内容をふまえ、多様な資料を読解しながら多面的・多角的に考察することで「歴史的思考力」を育成できます。大学入試で問われやすいテーマも豊富に用意し、資料読解力・表現力などを高めることを意識しました。

教科書中心の学習をしながら、通史学習だけでなくテーマ学習にも対応することを想定して作成したのが「テーマ別さくいん」です。今回の改訂にあたって、テーマの名称変更、用語の精選などを全時代で検討しました。教科書を徹底的に使いこなし、自分なりのテーマ史を編むためのツールとして使用してほしいと願っています。

5. さいごに

『日本史探究 新訂版』では、大学入試に対応できる知識・資料読解力などを身につけながら、生徒が主体的に学んで思考力・判断力・表現力を養えるように、様々な工夫をこらしています。指導者用デジタルコンテンツ・準拠ノートも充実しているので、先生方の授業準備、生徒の学習の両方を効率化できます。本書をぜひ教室でご活用ください。